

氏名	河 本 博 文
学位(専攻分野)	博 士(医 学)
学位授与番号	博 甲 第 1166 号
学位授与の日付	平成 5 年 3 月 31 日
学位授与の要件	医学研究科内科系内科学 (一) 専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)
学位論文題目	<b>Autoimmune responses as assessed by hypergammaglobulinemia and the presence of autoantibodies in patients with chronic hepatitis C</b> (C型慢性肝炎患者における高ガンマグロブリン血症および自己抗体で評価される自己免疫反応)
論文審査委員	教授 太田 善介    教授 中山 睿一    教授 木村 郁郎

### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

C型慢性肝炎患者 (C型) 149例とB型慢性肝炎患者 (B型) 55例, 自己免疫性肝炎患者11例を対象とし, 抗核抗体 (ANA), 抗肝細胞膜抗体 (LMA) を含む自己抗体と高ガンマグロブリン血症の点からC型における自己免疫現象を解析し, B型および自己免疫性肝炎と比較検討を行った。さらに一部の症例についてはHLA typingを行い, 免疫遺伝学的背景についても検討した。

ANA および LMA はそれぞれ, C型で34例 (22.8%), 25例 (16.8%), B型で17例 (30.9%), 9例 (16.4%) に出現し, いずれの自己抗体の出現頻度も, C型, B型の間で有意な差は認められなかった。しかしANAが1280倍以上の高力価を示した症例はC型で4例認められたのに対して, B型では17例全てが320倍以下であった。自己免疫性肝炎ではANAは11例全てに認められ, LMAは8例 (72.7%) に認められた。自己免疫性肝炎で両方の抗体が陽性であった症例は8例 (72.7%) あり, C型では11例 (7.4%) あったが, B型では両自己抗体陽性の症例は存在しなかった。自己免疫性肝炎の血清学的診断基準 (抗核抗体陽性かつガンマグロブリン値または血清 IgG 値2.5 g/dl以上) を満たしたC型は9例 (6.0%) 存在したがB型には同診断基準を満たす症例は存在しなかった。自己免疫性肝炎の血清学的診断基準を満たした4例と自己免疫性肝炎の7例にHLA typingを行った。自己免疫性肝炎の7例の内6例がHLA-DR4陽性で, 自己免疫現象の伴ったC型の4例は全例HLA-DR4が陽性であった。

以上より、C型における自己免疫現象はB型と比較してより顕著であり、さらにC型肝炎ウイルス感染によって一部の症例に自己免疫性肝炎患者で認められる自己免疫現象が惹起される可能性が示された。

なお、本論文は共著論文であり、共著者の協力を得て完成したものである。

### 論文審査の結果の要旨

本研究はC型慢性肝炎患者（C型）149例とB型慢性肝炎患者（B型）55例、自己免疫性肝炎患者11例を対象として抗核抗体、抗肝細胞膜抗体を含む自己抗体と高ガンマグロブリン血症の点からC型における自己免疫現象を解析したものである。その結果C型における自己免疫現象はB型と比較してより顕著であり、さらにC型肝炎ウイルス感染によって一部の症例に自己免疫性肝炎患者で認められる自己免疫現象が惹起される可能性が示された。これは価値ある重要な知見を得たものと考えられる。

よって本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。